

# C型肝炎ウイルスの薬剤耐性変異に対する研究の方向性について

## 「肝炎研究10カ年戦略」からの抜粋

### 1. 研究の現状及び課題

#### (1) 臨床研究

##### ②C型肝炎

(前略) さらに、平成26年9月より経口薬によるインターフェロンフリー治療が慢性肝炎や代償性肝硬変に保険適用となり、ウイルスの型によらず90%以上のSVR率が得られ、インターフェロン治療に不適格・不耐容や無効・再燃例に対しても広く治療が行えるようになった。

しかし、インターフェロンフリー治療については、治療が不成功になると強力な薬剤耐性を生じることがあり、治療方針の決定には十分な配慮が必要で、不成功例に対する再治療の効果は十分な根拠がないのが現状である。さらに、治療後の長期予後、とりわけ肝発がんや治療中・治療後におけるB型肝炎ウイルスの再活性化等の新たな課題がある。(後略)

### 2. 今後の研究における方向性

#### (1) 臨床研究

(前略) C型肝炎については、インターフェロンフリー治療に対する薬剤耐性や治療後の長期予後、とりわけ肝発がんに関する研究や非代償性肝硬変に対する抗ウイルス療法に関する研究は重要かつ緊急の課題であり、解決に向けた研究を推進していく。(後略)

### 3. 具体的な研究課題

#### (1) 臨床研究

##### ②C型肝炎

- ・ C型肝炎に対する最新の治療法（治療薬、治療期間など）を含めた治療の標準化に資する研究
- ・ インターフェロンフリー治療に対する薬剤耐性に関する研究
- ・ 肝発がんをはじめとするインターフェロンフリー治療後の病態変化及び経過に関する研究
- ・ 非代償性肝硬変に対する抗ウイルス療法に関する研究
- ・ 肝移植後のC型肝炎再発に対する治療方法に関する研究

### 4. 戦略の目標

平成33年度までに、前述の各研究課題に取り組み、以下のような研究成果目標の達成を目指す。

- ・ 臨床研究；  
C型肝炎：薬剤耐性ウイルスに効果のある治療薬・治療法を開発し、臨床試験・臨床応用につなげる